

## 事例の名称 : 鹿児島県三島村様 高齢者「遠隔相談サービス」

### 課題

- 1人暮らしの高齢者や、心身機能が低下し、見守りが必要とされる高齢者が増えるなか、限られた体制（マンパワー）でありながらも、常に高齢者が安心して末長く住み続けられるような環境を作りたい。

### ご提案内容

- **人のぬくもりを大切にしたICTで、高齢者の暮らしと健康を見守る「遠隔相談見守りサービス」**
  - ① 実際に対面して同じ書類や画面を見ているのと同じような感覚で相談を受けられます。
  - ② タッチパネルを採用しPCに不慣れな人でも簡単に操作可能です。
  - ③ 既存のシステムと連携してさまざまな相談サービスを提供可能です。  
（住民サービスシステム、電子申請システム、医療情報システム、など）
- 家族の見守り、高齢者同士の見守り、介護予防の機能強化などより幅広い用途にこのサービスを活用することができます。

### 成果・効果

- 高齢者の安否や体調を容易に確認できます。
- 一方的にお年寄りの状況を確認するのではなく、お年寄りも自ら参加できる『参加型の見守り』が実現。
- 見守る側の安否確認の負担を減らすことができます。
- KPI例 : サービス利用件数、みまもりの効率化、など

### ご参考費用

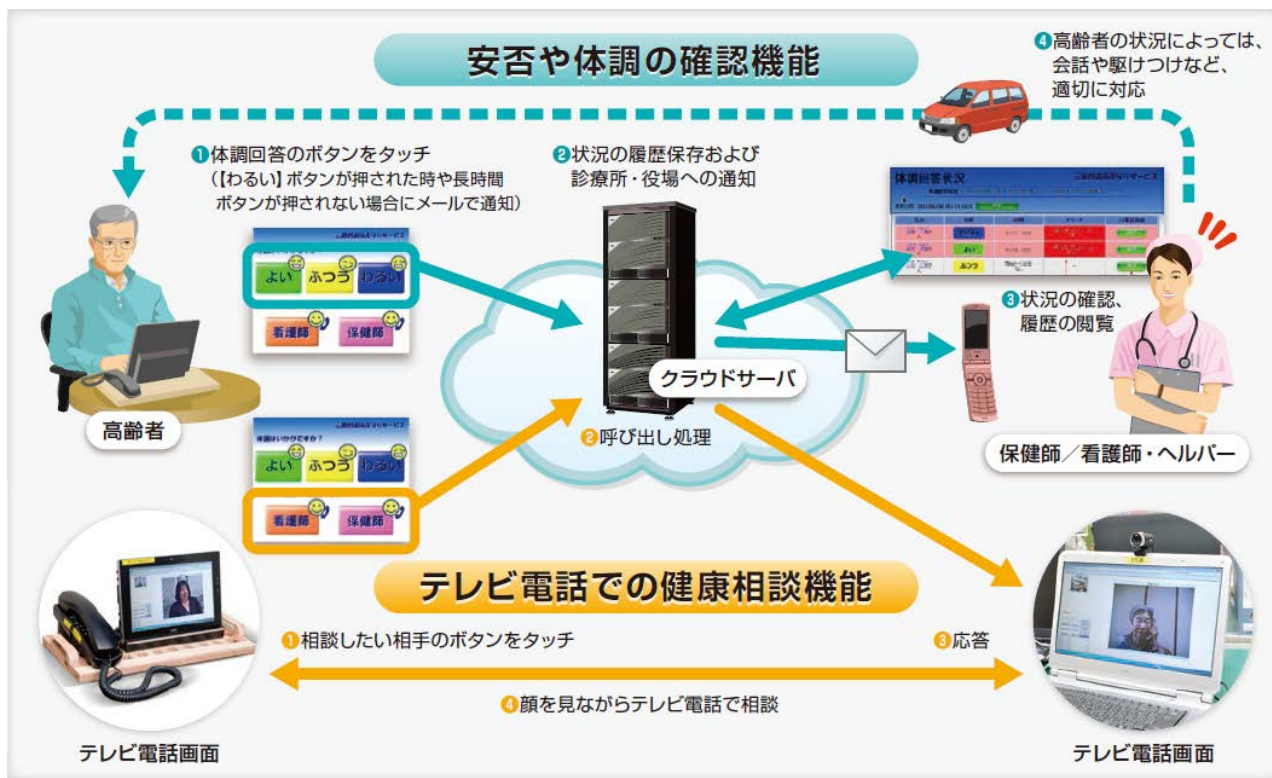
初年度予算規模 : システム構築費（個別見積り）  
次年度以降費用 : システム運用費（個別見積り）

### 総合戦略の該当項目

② U I J ターン助成

<お問合せ先>  
日本電気(株)関西支社  
事業推進部 新事業営業グループ  
・担当 : 相澤、西村、根角(初)、池田  
・電話 : 06-6945-3157

## 高齢者が簡単操作で気軽に利用できる「参加型のみまもりシステム」



### 顔の見える会話、ぬくもりあるメッセージで高齢者が使いやすくなるシステムを実現

この「遠隔見守りサービス」は、大きく2つの機能があります。1つ目の機能は、高齢者の体調の確認。高齢者自らが自宅に設置されたタブレットPCのボタン（【よい】、【ふつう】、【わるい】）を1日に2回以上押すことにより、サーバにその体調回答の履歴が記録され、高齢者の体調を保健師、看護師が確認することができます。【わるい】ボタンが押された時や長時間ボタンが押されない場合に、保健師、看護師、ヘルパーの携帯電話にメールで通知されるので、状況に応じて連絡や高齢者宅に駆けつけることができます。

2つ目の機能はテレビ電話によるコミュニケーションです。高齢者の方が体調不良を感じた時や相談をしたい時などに、看護師、保健師の顔を直接見ながら会話することができます。もちろんICTになじみのない高齢者に利用してもらうには、操作性も重要です。高齢者が使い方に迷わないよう、タブレットPCに内蔵されているマイクを使うのではなく、使い慣れた受話器を使って電話のように話せるような工夫をしています。

### ● その他の応用例

公民館と市役所・町村役場などの行政センターを結び、住民へ行政相談サービスを提供できます。住民は役所まで足を運ばずに近所の施設からサービスを受けることができ、行政側は人的コストを最小限に抑えることができます。

### ● その他高齢者見守りサービス

扉や電気製品にセンサーをつけて高齢者の行動を見守るサービス（eみまもり）や、タブレットを利用して回覧板や買い物サービスと連携したサービス（ライフコミュニケーションサービス、右参考写真）もあります。

（参考）ライフコミュニケーションサービスのタブレット

